



「東京水道経営プラン2021」 令和7年度事業評価



本資料は、経営計画に掲げた施策の達成状況及びその評価を報告するものです

評価結果を分かりやすく公表し、都民へのアカウンタビリティを確保すること及び評価結果を事務事業や予算編成に反映し、経営効率の一層の向上を図ることを目指し、事業評価制度を導入しています。

東京都水道局では、令和3年度を初年度とする5か年の「東京水道経営プラン2021」（経営計画）に基づいて事業を運営してきました。今回は令和7年度の達成状況を報告するものです。

（注）報告対象期間は、令和7年度（令和7年4月1日から令和8年3月31日まで）です。

ただし、必要に応じて当期間の前後についても言及しています。

東京水道経営プラン2021とは

「東京水道経営プラン2021」は、おおむね20年間の事業運営の基本的な方針である「東京水道長期戦略構想2020」（令和2年7月策定）で掲げた目指すべき将来の姿を実現するための経営計画であり、「強靱で持続可能な水道システムの構築」、「お客さまとつながり、信頼される水道の実現」及び「東京水道を支える基盤の強化」を3つの柱としています。

令和7年度に実施した取組を紹介します

I 強靱で持続可能な水道システムの構築

(1) 水源対策

📖 詳細は1-3ページ

水を育む豊かな森を守り、小河内貯水池の保全、安定した河川流量の確保のために、水道水源林の適切な管理・保全等を実施しました。

○多摩川水源森林隊の活動
⇒ **1,533人**（目標：1,500人/年）

○民有林の積極的購入
⇒ **188ha**（目標：200ha/年）

○適切な管理・保全
⇒ **627ha**（目標：600ha/年）



▲企業の森の活動の様子
将来にわたって適切な水源地の保全を行っていくため、企業と連携した森づくりを進めています。

(2) 水質対策

📖 詳細は4-6ページ

水道水の安全性をお客さまに分かりやすく伝えるために、あんぜん・あんしん水質指標の達成状況や水質検査結果、有機フッ素化合物への取組状況など、ホームページの掲載内容を随時更新しました。

○局HP上のあんぜん・あんしん水質指標の達成状況を更新しました。

▶ 水道水の水質や安全性等の情報を局HPを活用して分かりやすく発信しています。

①東京の水道のPFOS等の現状

- ▶ PFOS・PFOAについては、定期的に（年4回）検査を行っています。給水栓（蛇口）において、暫定目標値50ng/Lを大幅に下回っており、安全性を確保しています。安心してお飲みください。
- ▶ また、暫定目標値を超過するおそれがある場合には、当該の水源井戸からの取水を停止してまいります。
- ▶ 検査結果は、水道局ホームページにて公表しています。

【印刷・多摩地区 給水栓の水質検査結果】

https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/ten/ten_22.html#28



▶水質監視イメージ図



(3) 導水施設の二重化・更新、 送水管のネットワーク化・更新

☞詳細は7-12ページ

災害時や事故時においても安定給水を確保するため、送水管のネットワーク化などを実施しています。

令和7年度は、東村山境線（仮称）や新城南幹線（仮称）等の工事を実施しました。



▲シールドトンネルの様子
（東村山境線（仮称））
トンネル築造工事を実施しました。

(4) 施設の適切な管理と長寿命化

☞詳細は13-18ページ

安定給水の確保のため、浄水場等の予防保全型管理や浄水施設及び配水池の耐震化を実施しています。

令和7年度は、石畑給水所において、施工方法の工夫等により、前倒しで整備が完了しました。

- ▶ 耐震化工事完成時の配水池の内部の様子（石畑給水所）



(5) 大規模浄水場の更新

☞詳細は19-20ページ

大規模浄水場の更新・需要に合わせて、適切な施設整備を実施しています。



◀ 施工中の境浄水場



- ▶ 境浄水場再構築後のイメージ
※このパースはイメージであり、今後変更される場合があります。

(6) 給水所の新設・拡充・更新

☞詳細は21-24ページ

地域の給水安定性向上のため、給水所の新設・拡充・更新を実施しています。



▲王子給水所（仮称）
配水池築造状況



▲和田堀給水所
配水池及びポンプ棟築造状況

(7) 管路の更新・適正管理

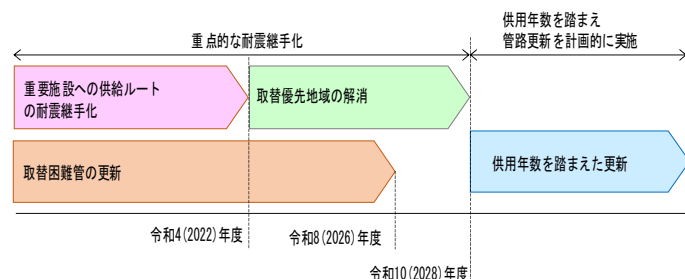
☞ 詳細は25-28ページ

大規模な震災が発生しても被害が最小限に抑えられるよう、引き続き管路の耐震化を実施していきます。

○耐震継手化・更新

- ・管路の耐震継手率 : 52%(令和6年度)⇒54%(令和7年度)
- ・取替困難管解消率 : 75%(令和6年度)⇒76%(令和7年度)

▶ 管路更新の進め方



(8) 多摩地区水道の強靱化

☞ 詳細は29-32ページ

地域特性に応じた効率的な施設管理や給水の安定性向上のため、浄水処理(膜ろ過設備)の導入や風水害対策及び管理室の統合を実施しました。
令和6年度から運転監視機能を1箇所統合し、効率的な運転監視を行っています

▶ 統合管理室(統合後)



(9) 災害対策

☞ 詳細は33-40ページ

震災などの自然災害が発生しても、被害が最小限に抑えられるよう、水道施設の耐震化や火山降灰への対策として浄水施設の覆蓋化等の取組を進めています。
令和7年度は、朝霞浄水場にて沈砂池耐震補強工事が完了しました。

- ▶ 朝霞浄水場
朝霞浄水場は沈砂池耐震補強工事が完了しました。



(10) 新技術を活用した水道システムの構築

☞ 詳細は41-43ページ

お客さまサービスの向上や業務の効率化のため、AIやICT等デジタル技術の導入を実施しています。
また、スマートメータの導入・運用も進めています。

- ▶ 令和7年度は、約14万個の給水スマートメータを設置しました。



(11) お客さまとの双方向コミュニケーション

☞詳細は44-47ページ

水道事業に対するお客さまの理解を深めていただくとともに、お客さまニーズを的確に把握し、事業運営に反映するため、水道サポーター交流会や学校水道キャラバン等を実施しました。

○学校水道キャラバンの実施⇒1,177校



▲水道サポーター交流会



▲水道キャラバン

(12) デジタル化の促進によるお客さまサービスの向上と業務の効率化

☞詳細は48-51ページ

「東京都水道局アプリ」を、お客さまのニーズに柔軟かつスピーディーに対応するため、継続的に改善しました。また、キャッシュレス化やペーパーレス化等も着実に進めています。

○「東京都水道局アプリ」ユーザー登録数⇒約277万人
(令和7年度末時点)



▲スマホで水道料金のお支払い



▲アプリアイコン

(13) 災害時の応急給水対策

☞詳細は52-53ページ

災害時の対応力を高めるため、年間を通じて約500回の訓練を実施しました。また、水道工事関連団体が独自で行う訓練を支援する等、団体との連携強化を図りました。



▲水道工事関連団体が独自で行う訓練を補助



(14) 環境対策

☞詳細は54-58ページ

効率的な事業運営を図りながら、環境に配慮した事業運営を実現するため、省エネ型ポンプ・小水力発電設備等の整備や水源林・玉川上水の保全を実施しています。



▲小水力発電設備の整備
(上北沢給水所)



▲間伐された水道水源林

(15) 業務運営体制の強化

☞詳細は59-60ページ

効率的かつ効果的な業務運営体制の構築のため、政策連携団体への業務移転を着実に実施したほか、人材の相互交流や、グループの総合力をより一層高める取組等を実施しました。

○港営業所及び杉並営業所を業務移転しました。

○政策連携団体の創意工夫を促し、一層の効率化を図るため、これまで検討を行ってきた性能発注方式による包括委託について、令和7年4月から導入しました。



▲「ともにプロジェクト」グループ研修の様子

(16) 人材確保・育成

☞詳細は61-62ページ

将来の水道事業を担う人材を育成するため、東京水道グループの人材育成や水道工事事業者の環境改善を実施しました。

▶ 経験豊富な主任等をOJTの推進役として位置づけた組織的なOJTを全職場で実施しました。



(17) 他事業体貢献

☞詳細は63-64ページ

国内水道事業体の基盤強化に向けた支援を実施しました。また、海外諸都市からの訪日研修や視察受入れにより海外水道事業体等の人材育成や技術支援を行うことで、途上国諸都市の水道事情の改善に貢献しています。

▶ 宇都宮市への生物学的観点を踏まえた水道水質管理に関する研修



<https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/suidojigyo/torikumi/hyoka/>

